

四半期報告書の廃止が走りになれば

このコラムのタイトルは、「おもろいでっせ!モノづくり」というもんです。

ものづくりの楽しさ、面白さを通して、大阪を、日本を元気にしよう、という心意気を示したかったんですが、最近、世の中ええことありませんなあ。

新型コロナウイルスがようよう収まるかと思うてたら、また変異ウイルスが出てきて感染者増えてしまうたし。感染者のグラフは、上がったたり下がったり、ジェットコースターやあるまいし、どこまで続くんでしうなあ。

加えて、ロシアのウクライナ侵攻が起こってしまい、世界中が不安と不信にあふれます。難民になってウクライナから脱出した女性や子どもさん見てたら、哀しくなりますなあ。故郷では、おだやかな日常生活があったやろうに、それが一瞬のうちに壊されてしまつて。なんとかならんも

◆四半期開示を巡る各国の状況

日本 (見直し方針)	四半期開示の法定義務を廃止。証券取引所が上場企業に義務づける短信のみに
米国	上場企業に義務
英国	上場企業の提出は任意
フランス	上場企業の提出は任意
ドイツ	2015年に法定義務廃止。上場規則で、最上位市場の企業のみ要請

●2022年4月14日読売新聞

んですかなあ……。

ましなニュースないですかなあ。元気になるような、と思つてましたら、新聞にこんな見出しが載つてました。

四半期報告書を廃止 政府来年度にも 企業の負担減

記事は読売新聞の四月一日付です。

このコラム読んでいただいている人は、おなじみでしょうが、「四半期報告書を廃止」は僕の尊敬する友人である原丈人はらぢょうしんさんが、かねてから提唱していることです。

原さんのフォーラムには 岸田首相からメッセージが送られてました

原さんについては、何度もご紹介してますから、覚えてらっしゃる方も多いでしょう。

簡単に経歴をおさらいしますと、日本の大学出て、中央アメリカで考古学の発掘しとったと思うたら、アメリカに渡つて、また大学に入り直して、ベンチャーを起業して、企業を育てる側に回つた。

それとともに、財団を作り、発展途上国の貧困の解決などに取り組んだり、日本政府の内閣府本府参与であったりして、昨年東京で開催された「二〇二二ワールド・アライアンス・



◎(株)アオキ取締役会長

青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事も。

フォーラム東京円卓会議」で会ったときは、問題提起を香港中文大学医学部の名誉教授・香港理工大学の総長特別顧問の肩書でやってみました。

僕は長い付き合いやと思うけど、いまだにこの人いったい何者やろうか?と思うほど八面六臂の活動なさってます。

そんな原さんは、公益資本主義を広めようとしています。

これも復習になりますが、公益資本主義というのは、株主資本主義に対するものです。

株主資本主義は、一言で言えば、会社は株主の所有物で利益は株主に分配されます。

公益資本主義は、社中、つまり社員、顧客をはじめ地域社会、ひいては地球環境まで会社を支える構成員に、利益を分配するものです。

ですから、公益資本主義に基づく株式会社は、長期持続的な利益と社会貢献を考えねばなりません。

そこから、短期的に利益を上げたら、さっさと会社が転売されるような、株主資本主義とはまるで違うものです。

そして、会社を持続させるためには、中期の戦略が必要です。今の日本のように、四半期ごとの決算で、みんなのためになりますか?人材に投資できますか?新機軸のプランに投資できますか?

目先の利益にとらわれず、社員のために、顧客のために、社会のために会社をつづけたいといけません。

昨年の原丈人さんのフォーラムには、岸田首相からメッセージが送られていました。岸田さんは「新しい資本主義」という

のを提唱しています。そして重要なのは「成長と分配の好循環」として。政府も原さんの提言を入れてがんばってほしいものです。

大谷ルールは ルールの技術革新と違いますか

もう一つ、スカットとするニュースを挙げときましょう。大リーグに行った大谷翔平選手の活躍です。

相変わらず投手と野手の二刀流で、大活躍しています。大したもんです。

そやけど日本におるときは、投手に専念せいか、打者一本に絞った方がという意見がぎょうさん出てたような気がします。ところがアメリカでは、今年「大谷ルール」というのを作りました。これは「先発投手と指名打者で出場した選手が、降板しても指名打者でその試合に出続けられる」ルールです。

ファンは大喜びやろうね。これルールの技術革新と違いますか。新しいこと試みるには、新しいルール必要やと思います。いまの日本は、新しいことは、リスクあるからやらない方がいい、という考え方が多いと思います。

でも、夢持たないと。野球はスポーツであるとともにエンターテインメントやから、楽しまないとね。日本でもスポーツ選手も、科学者や企業家も、楽しんで仕事できると、いいですなあ。

四半期報告書の廃止が、そんな環境づくりの走りになるとええんですが。